平成21年度　かながわ考古学財団入門講座
第4回ようこそ考古学

シリーズ・アクセサリー2

黄金の装身具

（財）かながわ考古学財団　林　雅恵

2009.11.6　西公会堂1号会議室

はじめに

- **古墳時代とは？**
  ３世紀後半頃～８世紀初め頃までの約450年間。

- **金工品が日本で流行した時期は？**
  ４世紀末～７世紀前半頃まで。
  ５世紀を境に大きく変化。

- **古墳時代の装身具の変化**
  ・前　半：弥生時代から続くガラスや石の玉類、貝製品が中心。
  銅製品・金銅製品が少し入る。
  ・後　半：【第一波】金製品・銀製品＋ガラスや石の玉類
  【第二波】金製品・銀製品・金銅製品＋ガラスや石の玉類
  【国産化】金銅製品中心＋ガラスや石の玉類
  ・終　末：装身具を身につけなくなる。

金工品とは？

金・銀・金銅・銅の素材を
使って作られた製品のこと。

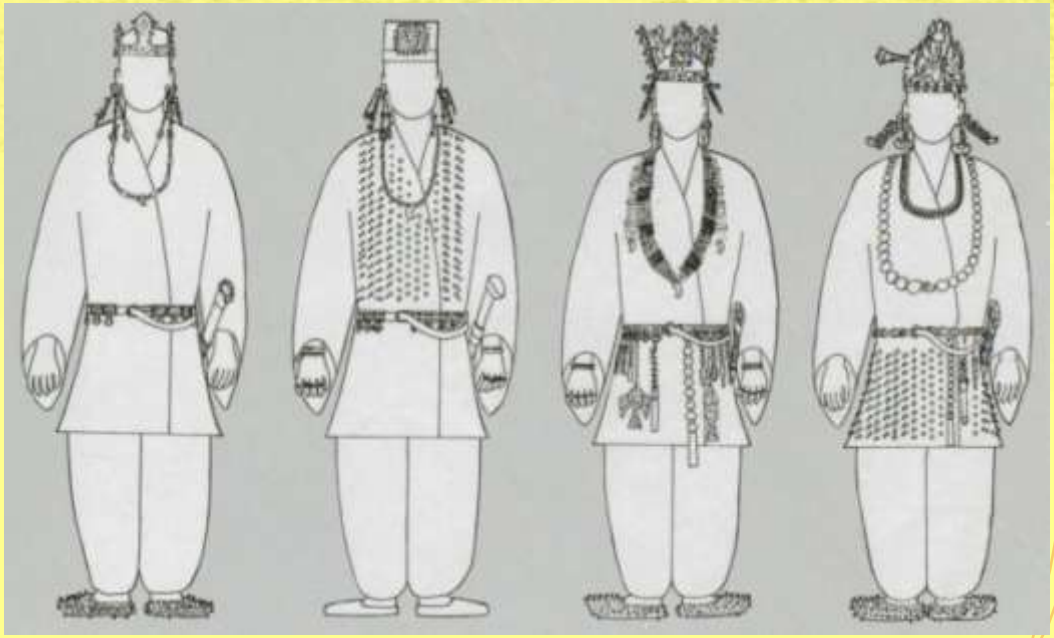
＊金銅とは？

①銅で作った製品に金アマルガム法により鍍金(ときん)したもの。
②銅で作った製品に金箔を貼ったもの。

古墳時代の一時期だけに流行した黄金文化！

古墳時代の装身具って何があるの？

- 冠・冠帽
- 額飾り
- 耳飾り
- 首飾り
- 釧(くしろ)・腕輪
- 指輪
- 帯金具・腰佩(ようはい)
- 足飾り（足玉）
- 沓・飾履(くつ)(かざりぐつ)



熊本県江田船山古墳（５Ｃ後半）

新羅・天馬塚（６Ｃ）

奈良県新沢千塚126号墳（５Ｃ）

百済・武寧王（６Ｃ）

『古代の装い』より

冠

奈良・藤ノ木古墳出土

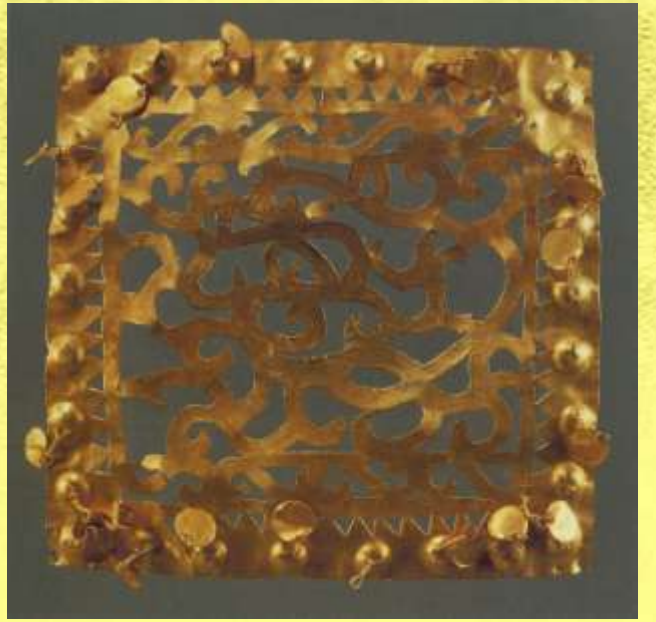
茨城・三昧塚古墳出土

冠帽

熊本・江田船山古墳出土

韓国・新村里９号墳出土

冠飾り



奈良・新沢千塚126号墳出土

額飾り

奈良・新沢千塚500号墳出土

玉鬘
(たまかづら)

奈良・藤ノ木古墳出土の復元

耳飾り（垂飾付耳飾すいしょくつきみみかざり）

奈良・126号墳出土新沢千塚出土

熊本・江田船山古墳出土

熊本・江田船山古墳出土

滋賀・鴨稲荷山古墳出土

１点として同じ垂飾付耳飾はない。

釧（くしろ）
腕輪

神奈川・北高森古墳出土鈴釧

首飾り

福岡・周船寺出土

指輪

奈良・新沢千塚126号墳出土

福岡・沖ノ島出土

帯金具

奈良・新山古墳出土

岡山・榊山古墳出土

大帯

群馬・綿貫観音山古墳出土

沓（くつ）飾履（かざりぐつ）

奈良・藤ノ木古墳出土

韓国出土装身具①

慶州・金冠塚出土

慶州・金冠塚出土

陝川・玉田28号墳出土

慶州・武寧王陵出土

韓国出土装身具②

韓国・皇南王塚出土　首飾り

韓国・皇南王塚出土　釧

慶州・天馬塚出土

腰佩（ようはい）

装着方法は？誰が身につけたの？

- 埴輪や壁画から推測
- 出土状態

耳飾りと櫛を付けた女
（群馬・綿貫観音山古墳）

足玉をつけた巫女（群馬・古海）

冠をかぶる首長（群馬・八幡原古墳）

『古代の装い』より

韓国で出土するモノと日本で出土するモノとどこが違うの？

韓国

- フルセット。
- 金の使用量が圧倒的に多い。
- 装飾（金粒・象嵌など）が非常に多い。
- 技術が比較的高い。

日本

- 単品。
  フルセットは非常に少ない。
- 金の使用量が少ない。（後半に入ると金銅製品が多くなる）
- 装飾は控えめ。
- 技術がやや低い。

神奈川の装身具

- 古墳時代後期の群集墳や横穴墓から出土することが多い。
- 金工品は少ない。
- 耳環（金銅環が中心）が多く出土。
- 古墳時代を通じて玉類の装身具が多い。

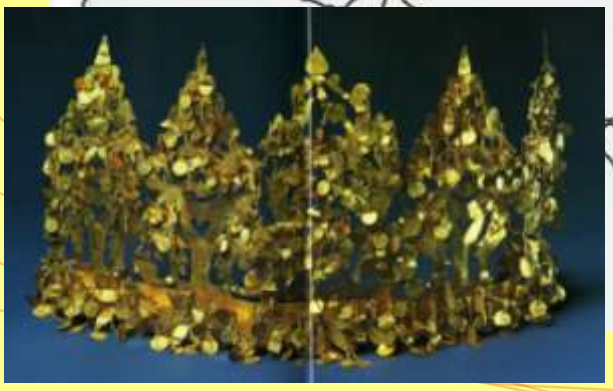
（勾玉・管玉・切子玉・丸玉など）

神奈川・藤沢市代官山横穴墓出土

源流はどこから？

韓国・伝高霊出土

シルクロードを辿って日本へ…



ティラ・テペ遺跡出土

『黄金細工と金銅装』より

奈良・藤ノ木古墳出土

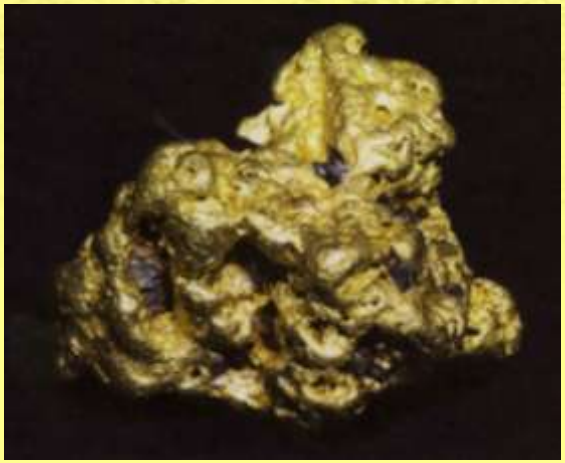
装身具を身につけなくなる時代

古墳時代終末期

奈良県高松塚古墳壁画

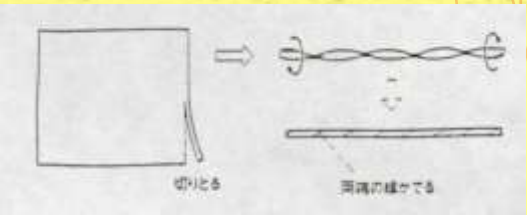
製作技術について　その１

材料と工房跡



金塊（北海道ウソタン産）

金糸（大阪・シシヨツカ古墳）



金糸の撚り方

銀滴・ガラス滓（奈良・南郷遺跡）

金滓と銀滓ほか
（奈良・飛鳥池遺跡）

製作技術について　その２

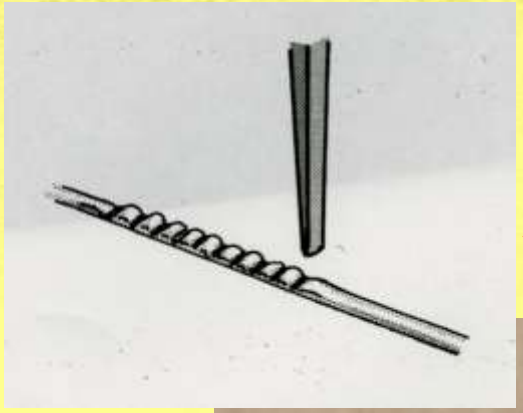
- 堤状連珠文(つつみじょうれんじゅもん)

図13　海金具の縁の連珠文

図14　海金具亀甲繋ぎ文の連珠文

図15　連珠文再現実験に使ったたがね群

藤ノ木古墳の馬具（『古代の技』より）



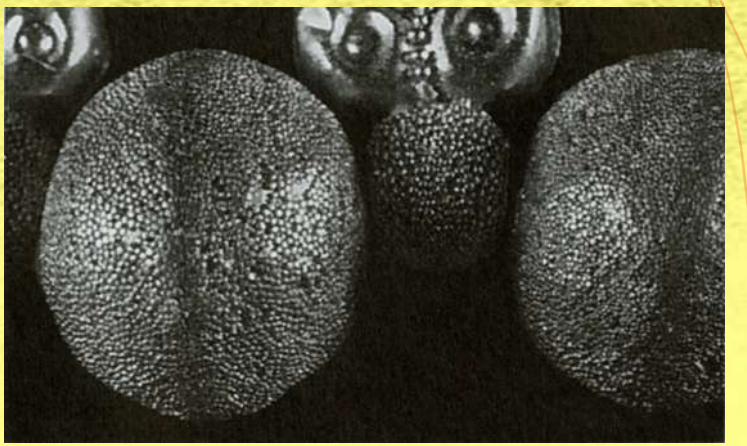
タガネで打つ
（依田2001より）

兵庫・西宮山古墳出土垂飾付耳飾
（林撮影）

製作技術について　その３

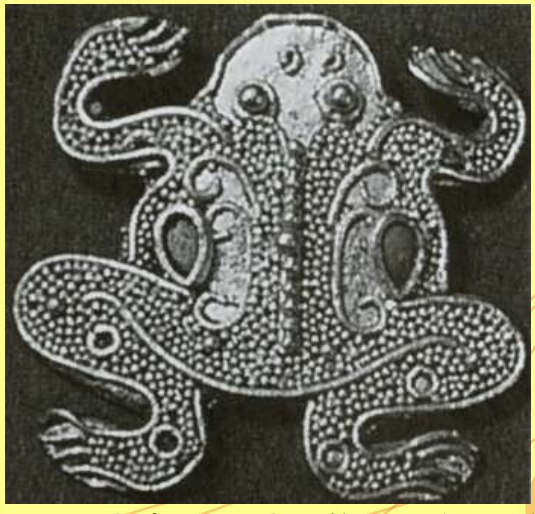
- 金粒の付け方

①鑞(ろう)付け
【金鑞・銀鑞】
②固相拡散接合
（こそうかくさんせつごう）



古代エトルリア・首飾り（紀元前７～５世紀頃）

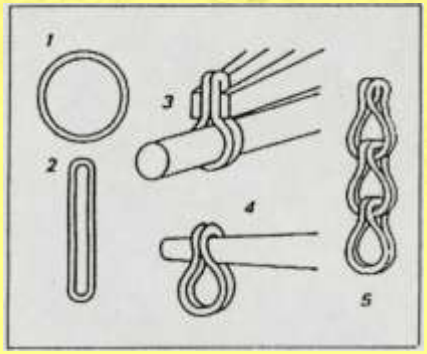
福岡・立山山８号墳出土垂飾付耳飾（林撮影）

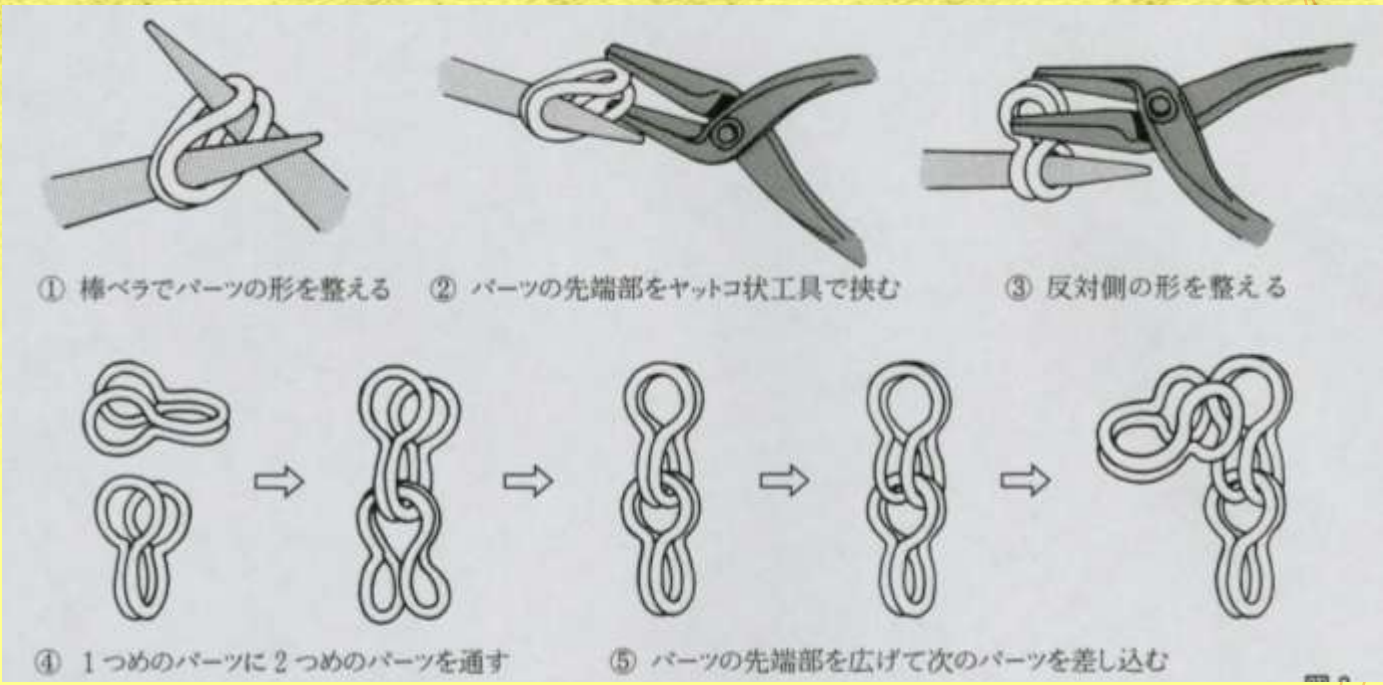


中国・山東省出土蛙形飾り（紀元前２世紀頃）

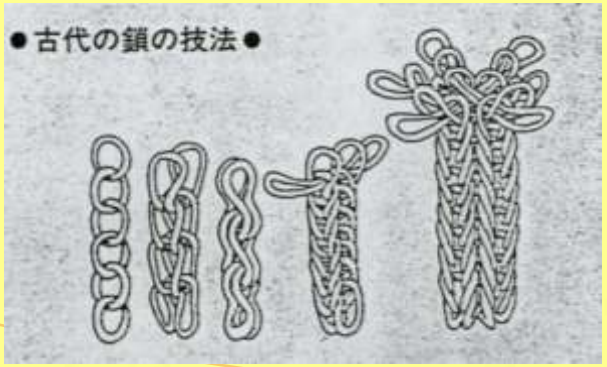
製作技術について　その４

● 兵庫鎖
(ひょうごぐさり)





依田2005より



複合兵庫鎖の作り方
（『煌めく装身具の世界』より）

熊本・物見櫓古墳出土垂飾付耳飾（林撮影）

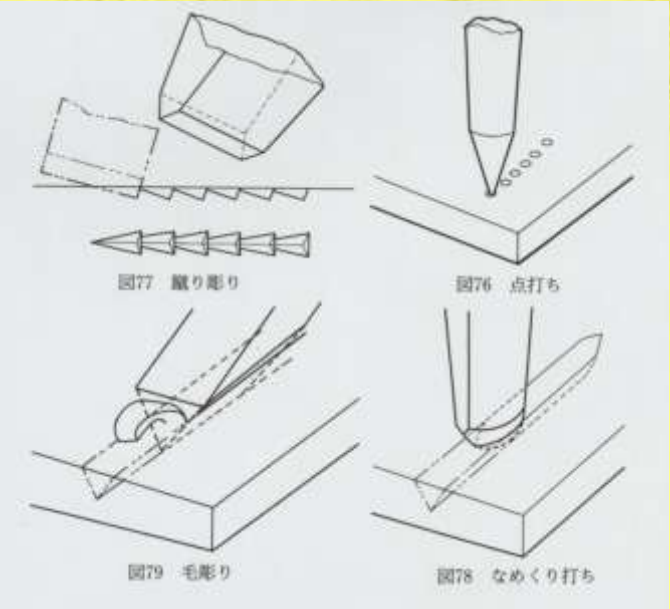
製作技術について　その５

- 鏨(タガネ)彫り

①蹴り彫り

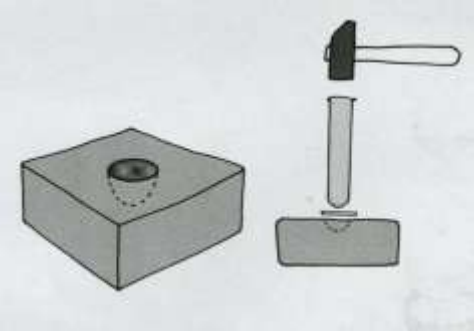
②毛彫り

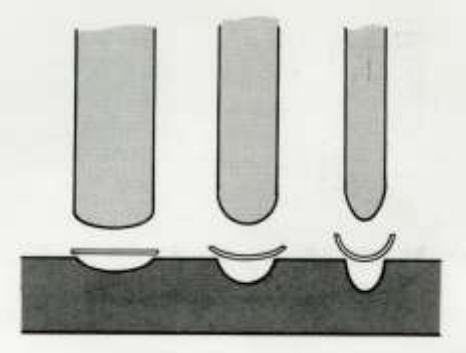
③点打ち



『古代の技』より

- 空玉(うつろだま)の作り方





依田2001より

まとめ

- 黄金の装身具は古墳時代の一時期だけ流行した。
（唐の文化が入ってくると同時に装身具は消えてしまい、仏像だけに見られる。）

- 金工品の製作技術はシルクロードを辿って日本に持ち込まれている。
（金粒の付け方は遙かエジプトから伝わっている）

- 日本に入ってきた当初は朝鮮半島製のものがそのまま持ち込まれている。（金製品・銀製品）

↓

その後、技術を身につけた職人により日本で製作されるようになる。（金銅製品）

- 黄金の装身具を身につけた人物は身分の高い貴人であった。特に冠・垂飾付耳飾・帯金具など。しかし、耳環（金環など）は一般の農民も身につけていた。